

# 特別な教科「道徳」の授業のあり方を考える - 地域小学校と大学の連携を通して -

吉備国際大学 道徳を学ぶ会

## 活動の目的

道徳が教科化され、「特別な教科『道徳』」が実施されることになった。しかし、学校現場では道徳の授業の仕方、評価の方法がよく分からないという実態がある。

本活動は、学校現場と大学が連携して学習することを通して、教材分析の仕方、授業の方法、評価の具体について研究を深め、学校現場の教員や学生が自信を持って道徳授業が行えるようになることを目標としている。また、その結果として、学校の道徳科の授業が充実し、児童・生徒の道徳性が確実に育まれ、高梁市の教育大綱「道徳教育を充実させ、豊かな心を育む」の推進を図りたい。

## 活動の内容及び経過

高梁市教育委員会の後援をいただき、全10回の学習会を吉備国際大学で行った。主な活動内容は3点ある。

- ①教材研究を行い授業の展開の仕方を考えたり、授業記録を持ちより発問の有効性を検討したりする学習会を行った。
- ②講演を聞き、疑問点を明らかにすることで道徳教育の基本的な考え方を広めた。
- ③高梁市からの依頼により郷土資料を作成し、指導案、板書計画を添付したCDRを作成し各小学校に配布した。

活動の実際（平成29年度）

6/15	資料の読み方	5 (1)
7/20	教科化へ向けてQ&A	14 (5)
8/3	評価のあり方	16 (4)
8/3	郷土資料作成委員会打ち合わせ	8
8/18 (午前)	郷土資料作成委員会 (低学年)	5
8/18 (午後)	郷土資料作成委員会 (高学年)	5
8/25	郷土資料作成委員会	3
9/28	話し合いを深める手立て	5 (1)
10/19	授業記録の読み方	5 (4)
2/1	道徳性を育成する指導と評価	15 (5)

数字は参加者数、( ) 学生数

## 活動の成果・効果

道徳の授業が児童・生徒の価値観の変容に迫り、道徳性に働きかける有意義なものになるためには中心発問が大切である。どの場面を捉え、どのような言葉を投げかけるかで授業が決まる。学習会を通して、読み物資料に出てくる主人公の生き方、考え方が変わった場面を捉え、その場を中心場面とすること、発問の言葉は心情のみを尋ねるのではなく、価値に迫る言葉を工夫することなどについて具体的に学ぶことができた。また、授業研究を通して、道徳科授業の展開の視点として、①導入時の発問により、今もっ



ている価値への考え方を意識化する、②具体的に心情を聞く発問から、価値そのものを考えざるを得ない中心発問への工夫、③終末に授業後の価値についての考え方を問う学習活動を入れること、の有効性が検証された。さらに、郷土の偉人「山田方谷」の読み物資料とその指導案例、板書例を作成し、授業で使えるようにCDRに焼き、各学校に配布した。

結果として、下記の4点の効果があった。

- ①学校現場の先生方の道徳の授業力が以前より上がった。
- ②道徳授業を丁寧に行う教師が増えつつあるので、少しずつ高梁市教育大綱基本方針「道徳教育を充実させ、豊かな心を育む」が推進されている。
- ③現場の教員と共に教材研究や授業分析をすることを通して、特別な教科「道徳」の授業展開について、教員志望の学生が理論実践的に学ぶことができた。
- ④郷土の偉人「山田方谷」の道徳の読み物資料作成を通して、自作資料の作り方を学ぶことができた。

## 今後の課題と問題点

今後の課題としては、次の2点が挙げられる。

- ①参加者が平均11人（10回）なので、より多くの先生方に関心を持っていただくこと。
- ②小学校が多かったが、中学校こそ研修が必要なので対象を広げること。

- 代表者：川上はる江 ●所在地：高梁市伊賀町
- TEL：0866-22-9424 ●E-MAIL：h-kawa@kiui.ac.jp
- URL：http://kiui.jp/
- 設立年：2016年 ●メンバー数：10名